

徹底した情報漏えい管理を実現する 次世代のセキュリティ・ソリューションを開発

革新的なセキュリティ・ソリューションの開発など、次世代の新規ビジネス創出に向けたイノベーション活動に注力するNTTコミュニケーションズ 金融イノベーションシステム部。本稿では、同部が取り組む次世代セキュリティ・ソリューションを紹介する。

企業の情報漏えい対策に関する最近のニーズ

企業の情報漏えい対策として、不正アクセスに対する防御などの基本的な対策は必要不可欠であるが、近年では更に一歩進み、社外での情報漏えいを予め想定することも必要になってきている。NTTコミュニケーションズ 金融イノベーションシステム部（以下、金融IS部）では、このような新たなニーズに対応するセキュリティ・ソリューションの開発に注力している。

金融IS部は、2009年にサービス開始した電子記録債権システム（電子手形）や、250以上の官公庁や企業で

導入されているICカードを活用したセキュリティ・ソリューションの提供など、企業のビジネスを支援するイノベーションに取り組んできた。

「情報セキュリティを取り巻く状況を見ると、セキュリティの事前対策はもはや当たり前となりましたが、私どもは問題が生じても速やかな事後対応・復旧を可能とする『事故前提社会』への対応が重要だと考えています。このような観点で、情報が外部に出た後の管理をどうするかといった、従来のソリューションでは対応が難しい課題を解決できる、新しい商材の開発を進めています。」（金融イノベーションシステム部 セキュリティビジネス部門 遠藤孝弘氏）



NTTコミュニケーションズ(株)
金融イノベーションシステム部
セキュリティビジネス部門
部門長 遠藤 孝弘氏

遠藤孝弘部門長)

社外に開示した情報を管理する セキュアドキュメント流通 プラットフォーム

自社で万全なセキュリティ対策を行っていても、外部委託先などからの情報漏えいを防ぐことは難しい。また、ファイル交換ソフトなどにより機密情報が流出してしまった場合、情報の回収は非常に困難だ。これらの課題を解決するソリューションが、「セキュアドキュメント流通プラットフォーム」である（図1参照）。

「本ソリューションは、ファイル等のコンテンツに権限を付与し、情報が流通した後も管理するDRM（Digital Rights Management）と

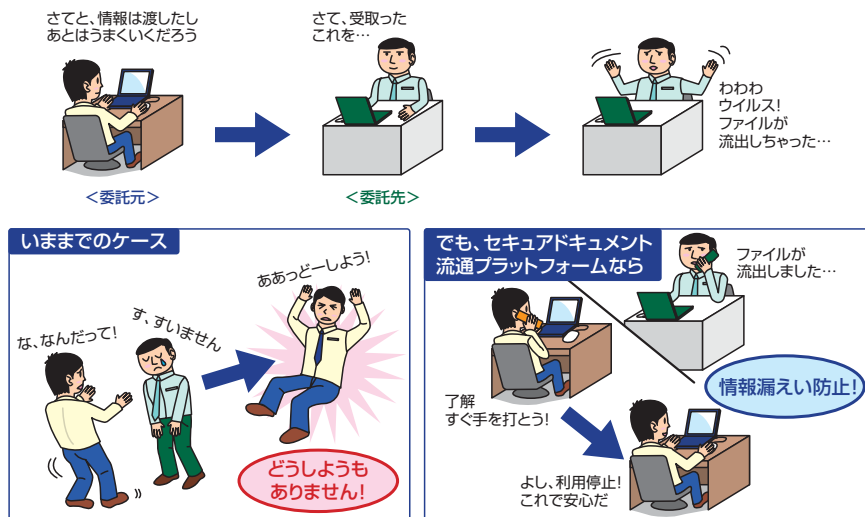


図1 セキュアドキュメント流通プラットフォーム

いう技術を企業環境に適用するものです。これにより、万が一情報が漏えいした場合でも、即座にファイルの利用を停止させるといった対応が可能となります。」(西田信一氏)

外部委託先に機密情報を開示する際、開示するユーザーとその権限(閲覧、編集、印刷など)、利用期間を設定することができる。また、情報を送信した後に、この設定を変更することも可能だ。「管理ミスや誤操作により情報が漏れたとしても、後からコントロールできることが本ソリューションの大きな強みです。ファイルそのものは常に暗号化された状態で存在し、漏えいしたとしても鍵のない状態で流通するだけなので安心です。」(鈴木啓之氏)

利用可能なファイルは、Microsoft Office、PDF、テキスト、画像、動画と幅広く対応しているが、金融IS部ではお客様の要望に応じて、さらに対応ファイル形式を追加していく予定だ。現在はSIとして提供する本ソリューションだが、今後はSaaSとして提供することも視野に入れている。なお、先日開催された「INTEROP」に



NTTコミュニケーションズ(株) 金融イノベーションシステム部 セキュリティビジネス部門
左から 鈴木 啓之担当課長 大西 智久担当課長 西田 信一主査

において、ソリューション&サービス部門セキュリティソリューション Best of Show Award 2010特別賞を受賞したことも、付け加えておく。



既存端末をそのまま活用できる シンククライアント・ソリューション

シンククライアントは、サーバ側で一括して情報を管理するため、情報漏えい対策に効果が高いといえるが、導入時のインシヤルコストがかかる、バージョンアップ対応が煩雑といった課題があり、なかなか導入が進まないのが現状である。しかし、クライアント端末に機密データを保存させたくないというニーズは依然として高い。

金融IS部では、こうしたニーズに対応する「仮想シンククライアント・ソリューション」を開発した。本ソリューションは、既存PC端末を利用して安価にシンククライアント化を実現する。クライアント側に専用ソフトをイ

ンストールし、ローカルのHDDへの書き込みを禁止するとともに、データの保存先をファイルサーバに限定することで、PC端末上にデータを残さない仕組みだ(図2参照)。

「大きな特長は、既存のPC端末がそのまま利用できることです。PC端末上でアプリケーションが動作し、シンククライアントサーバが不要なため、一般的なシンククライアントと比較して1/4~1/5の価格で提供が可能です。また、既存PCを利用する点で、グリーンなICTソリューションといえますね。」(大西智久氏)

その他にも、導入が簡単、現在利用中のアプリケーションをそのまま利用可能、といった特長もある。

「今後、モバイル利用が出来る仕組みも開発していく予定です。また、スマートフォンへの対応等も視野に入れ、業種業態を問わず、いろいろな企業に提供していきたいと考えています。」(大西智久氏)

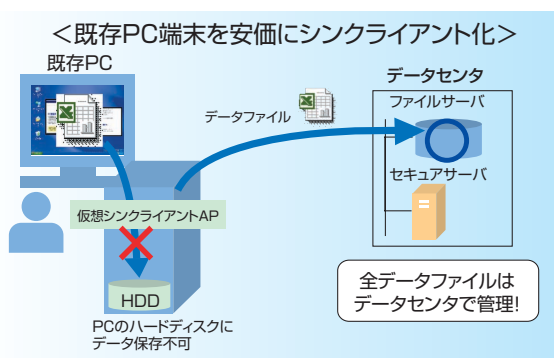


図2 仮想シンククライアント・ソリューション

お問合せ先

NTTコミュニケーションズ株式会社
金融イノベーションシステム部
セキュリティビジネス部門
TEL: 03-6733-8205
E-Mail: ssg-if@ntt.com